

# —指導事例集—

- 1年・国語「おみせやさんごっこをしよう」  
(情報発信者の責任と相手への配慮)
- 1年・学級活動「成長した自分に気づこう」  
(情報発信者の責任と相手への配慮)
- 3年・社会「わたしたちのくらしと商店の仕事」  
(個人情報やプライバシーの保護)
- 4年・道徳の時間「話し合おう、『意見箱』」  
(情報発信者の責任と相手への配慮)
- 4年・道徳の時間「電話の向こうはどんな顔」  
(情報発信者の責任と相手への配慮)
- 5年・算数「割合」  
(情報の信頼性や信ぴょう性についての意識)
- 6年・総合的な学習の時間「ホームページを更新しよう」  
(情報発信者の責任と相手への配慮)
- 3年・音楽「こころのうた」  
(情報の信頼性や信ぴょう性に付いての意識)
- 3年・図画工作「本日発売！ 2ページ絵本」  
(著作権などの尊重)

## 情報発信者の責任と相手への配慮

－ 1 年・国語－

### 1. 主題・単元名 「おみせやさんごっこをしよう」

### 2. 題材・教材について

お店屋さんごっこでは、「話す・聞く」活動がある。「ごっこ」とはいえ、実の場で「話す・聞く」の学習を促すことができる。役割演技を取り入れることで表現力を豊かにするなど、尋ねたり応答したりするという言語活動を活発に行うことができる。丁寧な言葉と普通の言葉との使い分けの学習に活用することも考えられる。

### 3. 目標

#### (1)単元の目標

- ・計画の段階も含めたお店屋さんごっこの体験を通して、相手を意識した対話を行うことができる。
- ・目的や相手を考えながら、お店屋さんごっこについての手紙を書くことができる。

#### (2)本時の目標

- ① 教科や領域に関する目標  
「おみせやさんごっこ」の場面を通して、話したり聞いたりする力を伸ばす。
- ② 情報モラル教育に関する目標  
相手と場を考えた話し方や聞き方を身につける。

### 4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
1 本時の学習を知る。	
<p>「おみせやさんごっこ」を楽しむため、 上手な話し方や聞き方について考えよう。</p>	
2 上手な話し方や聞き方について意見を出し合う。  ・はなしかた ていねいなことばではなす なにを、いくつ かうか、わすれずにはなす  ・ききかた わからないことは、たずねかえしてきく うなずいたり、たしかめたりしてきく	○声の大きさ、何を・いくつ、尋ね返して確認する、気持ちのよい声かけなど、児童が気づいたことを取り上げていく。 ○意見を出し合う時、つぎのことを助言する。 ・客 品物の名前や個数がはっきり分かるように話す 店の人 客の注文をよく聞き、値段をはっきりと告げる 両方 お互いに分からないことがあったら分かるまで尋ね返す。 ◇上手な話し方や聞き方について意見を出し合うことができたか。
3 CDを聞いて、客や店の人がどのような話し方をしているか、確かめる。	
4 グループの中で客と店の人の役に分かれ、売り買いの練習をする。	○上手に売り買いができていく児童がいたら、随時取り上げ、お手本として示す。 ○生活科での学習や日常生活の体験を生かして話し方を工夫させる。
5 本時のまとめをする。	◇上手な話し方や聞き方が身についたか。

**情報発信者の責任と相手への配慮**

— 1 年・学級活動 —

1. 主題・単元名 「成長した自分に気づこう」

2. 題材・教材について

本時の学習では、友達についての情報からその名前を当てるクイズを題材として取り上げた。このクイズを作るには、相手の気持ちを考えながら言葉を選ぶことが大切である。それは友達のよいところに気づき認め合い、さらによい人間関係をつくってほしいという願いからである。

3. 本時の目標

(1) 教科や領域に関する目標

① 友達のよさに気づき、お互いを尊重しながら話し合することができる。

(2) 情報モラル教育に関する目標

② 問題文に出題することが、相手にとって発表してもよいことか、本人も同じように思っているかを確認することができる。

4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援 (○留意点、◇評価)
1 前時の学習を振り返る。  2 本時の学習を知る。	○前時で、友達の良いところやがんばっているところについて話したことを思い出させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">『わたしはだれでしょう。』のクイズ問題を作ろう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班で誰についてのクイズをだすかを決める。</li> <li>・ 皆に共通して、嫌な感じを与える言葉、個人にとって言われたくない言葉があることを考えさせる。</li> <li>・ クイズの答えとなる人に問題文を読んでもらい、みんなに発表してもいいか確認させる。</li> </ul>	○クイズの出し方を知らせる。 ① 班の中から一人を選ぶ。 ② その友達についての問題文をいくつか作る。 ③ 班の子ども達が一人一つずつ問題を読みあげる。 ④ ほかの子ども達は問題文を聞き、誰のことを言っているのか想像して答える。  ○問題文に入れないこと。 悪口。みんなに知られたくないこと。 ○問題文の例がうかばない時は、好きなもの、得意なこと、がんばっていることなどを考えさせる。
3 クイズを出し合う。	◇クイズに出題することが相手にとって発表してもよいことか、本人も同じように思っているかを確認できたか。  ○友達のことを傷つける言葉がなかったか確認する。 ◇言葉を選び相手の気持ちを考えながら、問題文を読むことができたか。
4 本時のまとめをする。	◇友達の良さに気づき、お互いを尊重しながらクイズをすることができたか。

**個人情報やプライバシーの保護**

—3年・社会—

1. 単元名 「わたしたちの暮らしと商店の仕事」

2. 題材・教材について

これまでの見学・取材活動で、デジタルカメラを使って取材相手や取材場所の写真を撮影する機会が多くなってきた。本単元の「商店の仕事」も、子どもたちが「お店たんけん」として、実地の見学や取材活動を中心とした学習であった。情報モラルの観点から、撮影する際には、きちんと相手の許可を得るというルールについて指導してきた。

本時は、「お店たんけん」の活動の最後に撮影した写真を使い、調べたことを発表用にまとめる学習である。商店で働く人々の写った写真を個人情報として扱い、その活用の仕方を考えさせたい。写真等の資料のまとめる場合でも、情報の発信者として注意しなければならないことも考えさせたい。

3. 目標

(1)単元の目標 商店の仕事や働く人々の工夫や苦勞を知り、自分の生活との関わりについて考える。

(2)本時の目標

①教科や領域に関する目標

見学やインタビューを通して分かったことや、集めた資料などを工夫してまとめ、自分なりに商店の仕事についての考えをもつ。

②情報モラル教育に関する目標

取材でデジタルカメラで撮影した人物写真の利用の仕方や、撮影時や発表時のルールについて考える。

4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
1 本時のめあてを知る。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>見学して調べたことを分かりやすくまとめよう。</b> </div>	
2 活動の中で集めた資料や、写真を整理する。 ・インタビューして分かったことをまとめる。 →メモしたことを見ながら説明の文章を考える。 ・デジタルカメラでとった写真の使い方を考える。 →説明の文章をもっと分かりやすくするための使い方を考える。	○始めからまとめることが困難な児童には、メモしたことを種類別にまとめさせる。 ○発表を聞いている人に分かりやすい文章にするにはどのような工夫が必要か考えさせる。 ◇聞いている人に分かりやすい発表を考えて、文章を工夫している。  ○自分の写真だったらという視点で一緒に振り返る。 ○人物の写真を扱うときのルールや注意を思い出させる。 ◇人物の写真の扱い方を考えて、発表に生かそうとしている。
3 発表用にまとめる。 ・文章と写真の組み合わせなどの構成を考えてまとめていく。	○模造紙や画用紙などを、児童が考えたまとめ方に合わせて準備しておく。

**情報発信者の責任と相手への配慮** — 4 年・道徳の時間 —

1. 主題・単元名 「話し合おう、『意見箱』」
2. 題材・教材について
 

「意見箱」という題材を取り入れ、匿名の長所、短所について考えさせるようにした。匿名の長所を十分に感じさせ、匿名自体が悪いというのではなく、責任をもって自分の意見を伝えることが大事だと気付かせたい。
3. 目標
  - (1) 本時の目標
    - ① 教科や領域に関する目標
      - ・正しいと思うことは勇気を持って行い、正しくないと思うことは勇気をもってやめる態度を育てる。
      - ・誰に対しても真心をもって接する態度を育てる。
    - ② 情報モラル教育に関する目標
      - ・匿名のよさと問題点に気付かせ、相手のことを考え無責任な内容を発信しないようにする態度を育てる。
4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
1 気持ちの伝え方について考える。 ○伝えたいことがある時はどうする？ ・直接言う ・友達に頼む ・手紙にする ・先生に言う ・言わずにだまっている	○面と向かっては自分の気持ちを伝えられない人がいることに目を向けさせる。 ○事前にアンケートを取っておき、集計したものを拡大して黒板に掲示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">話し合おう、「意見箱」</div>	
2 本時の学習について知る。	
3 友達への悪口、自分勝手な意見などが入れられた『意見箱』について話し合う。 ○「これを見てどう思う？」 ・ひどい ・書かれた人がかわいそう ・意見箱だから別にかまわない  ○「書いた人はどんな気持ちで書いたのか？」 ・直接言えなかったから ・ふざけて ・〇〇君のことが嫌いだったから  ◎「なぜふざけて意見箱を使っている人がでたのだろう？どうすればなくなるのだろう？」 ・意見箱があるから ・名前を書かないから ・意見箱をなくす ・名前を書くようにする ・一人一人が責任をもって書くようにする	○意見箱が有効に活用された例も示し、意見箱の有効性を確認する。 ○「何を書いてもいい」という意見が出ても否定しない。 ○その箱を本当に必要だと思って使っている人と、ふざけて使っている人がいることに気付かせる。 ○箱をなくすのではなく、誰もが正しく使えるための方法を考えさせる。  ○「名前を書くこと」も大切だが、「各自が責任をもって書くこと」がより大切であるということをおさえる。
4 教師の説話を聞いて学習のまとめとする。  ・web ページ上でも同様のことが起きていることを知る。 ・責任をもって情報を発信することが大切だと知る。	○実際にホームページを見せ、web ページ上でも同様のことが起きていることを知らせる。 ◇匿名のよさと問題点に気づき、責任をもって情報を発信することが大切だと分かったか。

**情報発信者の責任と相手への配慮** — 4年・道徳の時間 —

1. 主題・単元名 「電話の向こうはどんな顔」（礼儀）

2. 題材・教材について

(1) ねらいとする道徳的価値及び情報モラルとの関連

電話など相手の姿が見えない時には、相手の立場や気持ちを考えることなく失礼で誠意のない応対をしてしまうことも少なくない。その結果、相手を傷つけてしまうこともある。そこで、この教材を取り上げて、相手の姿が見えなくても礼儀正しく誠実に行動する心を育てたい。

(2) 資料について

陽一が買ったばかりの漫画を読むのに夢中になっていたとき、母親の友だちから電話がかかってきた。取り次ぎはするものの、漫画に気を取られていて誠意のない応対だった。相手を長い間待たせたことをあやまっている母親を見て、漫画に夢中になっていた礼儀正しい応対をしなかったことに気づく。

この資料は、単に電話にとどまらず、インターネットやメールに置き換えても十分そのめあてが達成できると考えた。

3. 本時の目標

① 教科や領域に関する目標

・相手の気持ちを考えて礼儀正しく行動しようとする態度を育てる。

② 情報モラル教育に関する目標

・相手の姿が互いに見えないときほど、慎重に応対をすることの大事さに気付く。

4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
電話がかかってきてうれしく思ったことや不愉快になったりしたことを話し合う。  1 本時の学習を知る。 ・資料「電話の向こうはどんな顔」を読む。	○学級の友だち同士の出来事については、その扱いに留意する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">陽一の取った行動について考えてみよう。</div>	
2 電話がかかってきた時、陽一はどんな気持ちや態度で話したか考える。  3 話し合う。	○相手のことを思いやらずに、漫画に気を取られている様子を想像させる。  ○相手への心遣いの大切さについて、一人一人の感じ方、考え方を交流させるようにする。 ◇陽一の気持ちや態度が読み取れているか。 ○相手が見えないからということに気付かせる。
4 陽一は、どういう状況なら電話の応対を丁寧にしたかを考える。	○出ない場合は例をあげる。
5 相手が見えない交信には、他にどんなものがあるか考える。  6 本時の学習をまとめる。	◇電話だけではなく、インターネットやメールの交換にも「思いやり」や「礼儀」が必要であることを知らせる。

## 情報の信頼性や信ぴょう性についての意識 — 5年・算数一

1 主題・単元名 「割合」

2 題材・教材について

発展的な学習として本時を設定し、2つのチラシを比べて「どちらが得か」ということを考えさせる課題とした。その際、一見すると誤解を起ししやすいものを題材として選んだ。この学習を通して、与えられた情報に対して感覚だけで判断せず、慎重に吟味することの大切さを知ってもらいたいと考えている。

3 目標

(1)単元の目標

割合の意味について理解し、小数や百分率を用いて問題を処理することができる。また、求めた割合を帯グラフや円グラフに表すことができる。

(2)本時の目標

① 教科や領域に関する目標

・割合を用いて数量関係を処理し、的確に判断しようとする。(関心・意欲・態度)

・基になる量を1や100にしたり具体的な数値にしたりするなど、工夫して問題を解決することができる。(数学的思考方)

② 情報モラル教育に関する目標

・与えられた情報をもとにして、正しく判断する。

4 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援 (○留意点、◇評価)
<p><b>1 課題把握</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>さとし君はお寿司を食べたいと思い、インターネットでお店を調べたところ、いいお店が2つ見つかりました。</p> <p>太郎ずし：1日は月に1回の特売日！ 代金の半額を金券でお返しします。金券は特売日以外の日なら、いつでも使えますよ。</p> <p>次郎ずし：1日は月に1回のサービスデー！ 全品 50%引です。</p> <p>さとし君は「これからも通い続けるとしたなら、どちらが得かなー」と考えています。あなたがさとし君なら、どちらの店を選びますか。</p> <p style="text-align: center;">① 太郎ずし      ② 次郎ずし      ③ どちらも同じ</p> </div>	
<p><b>2 自力解決</b></p> <p>(1) どちらも同じ</p> <p>①半額も50%引きも「代金が半分になる」ということだから。</p> <p>②例えば1000円分食べたとすると、</p> <p>太郎ずし：<math>1000 \div 2 = 500</math></p> <p>次郎ずし：<math>1000 \times 0.5 = 500</math> で同じ。</p> <p>(2) 次郎ずしが得</p> <p>③例えば、3000円分食べるには</p> <p>太郎ずし：はらう金…2000円 金券 …<math>2000 \div 2 = 1000</math> (円)</p> <p>次郎ずし：<math>3000 \times 0.5 = 1500</math> (円) だから、次郎ずしの方が500円得</p> <p>(3) わからない</p>	<p>◇ 基準量を1や100にしたり具体的な数値にしたりするなど、工夫して問題を解決することができるか。(ノート・発言・つぶやき)</p> <p>◇ 割合を用いて数量関係を処理し、的確に判断しようとしているか。(ノート・つぶやき)</p> <p>○ わからない子に対しては、「何がわかれば考えやすくなるか」と問い、基になる量(代金)をきめれば、考えやすくなることに気付かせる。</p>
<p><b>3 発表</b> ・(1),(2)の反応をそれぞれ挙げる。</p>	<p>◇ 割合を用いて数量関係を処理し、的確に判断しようとしているか。(発言・つぶやき)</p>
<p><b>4 まとめ</b></p> <p>・必要な数がない場合には適当に数を当てはめて考えるといい。</p> <p>・次郎ずしの方が得になる。 →与えられた情報をもとによく考えて選ぶことが大切。</p>	<p>○場合によってはもう一度小グループ討論に戻したり、教師が支持の少ない立場に立った発言をしたりして話し合いを深めていく。</p>

**情報発信者の責任と相手への配慮** —6年・総合的な学習の時間—

1. 主題・単元名 「ホームページを更新しよう」

2. 教材 自分たちで作成したホームページ

6年生になるとグループでホームページを作って、学校のホームページで社会に広く公開することが本校では伝統となっている。「自分たちが作ったページが世界中の誰に見られるかわからない」ということを意識させることが大切である。個人情報の扱いや人権上の配慮、内容の正しさなどきちんと点検してから発信させるようにしたい。それだけではなく、内容がクラスや学校内だけでしか通用しないのではないかという視点からもしっかりと吟味させたい。

3. 目標

(1)単元の目標

- ・自分たちの学校や学校を紹介するホームページを作成することで、パソコンやインターネット利用に関する理解を深める。
- ・情報を発信する上での責任やルールについて理解する。

(2)本時の目標

- ・グループごとに作成したホームページを互いに見合って検討し内容が適切かどうか話し合い確認することを通して、責任を持って情報発信しようとする態度を身に付ける。

4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
1 グループで作ったページを確かめる。	○内容や操作上の問題がないかなど、公開されたことを考え、自分の作った部分を見させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>みんなが作ったページをお互いに見てみよう</b> </div>	
2 どんなことに気をつけて見たいか話し合う。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容に誤りはないか</li> <li>・顔が映っているなど、写真に問題はないか</li> <li>・誰が見てもわかる内容になっているか</li> <li>・言葉遣いなどに問題はないか</li> <li>・電話番号や住所など個人情報を載せていないか</li> </ul>	○見合う上での視点を考えさせる。 ◇情報発信に必要なことは何か考えて発言している。 ○うまく出ない場合は例を出して考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の誤り</li> <li>・見やすさ</li> <li>・著作権</li> <li>・見た人を不愉快にさせない内容 (下品、人を傷つける など)</li> </ul>
3 話し合った視点にそって、ページを見る。 「自分が別の学校の人だと考えて見てみよう。」	○他の学校の児童の立場になって見させる。 ◇視点について考えながらページを見ている。
4 良かった点、問題点について発表する。	○良い点についても見るよう助言する。 ◇それぞれのページについて意見をもつ。
5 話し合ったことをまとめ、必要に応じてページを修正する。	○出なかった部分は教師側で補足する。



**情報の信頼性や信ぴょう性に付いての意識** — 3年・音楽 —

## 1 主題・単元名 「こころのうた」

## 2 題材・教材について

童謡を歌えない子どもたちが多くなっている。またマスメディアを通して替え歌が一時期流行し、子どもたちがおもしろおかしく歌っていたことがあった。子ども達は正しい歌詞を知らず、当然歌詞の意味も美しさも知らない。言葉を理解し気持ちを感じ取って歌うことの大切さを教えていきたい。日本の風情、情緒を表現している一つ一つの発音や言葉の意味などを十分指導し、日本語の美しさやすばらしさを味わいながら心に残る歌にしていきたい。

## 3 目標

(1)単元の目標 歌詞から思い浮かべられる様子や曲の気分を感じ取って、気持ちをこめて歌う。

## (2)本時の目標

## ① 教科や領域に関する目標

野口雨情の多くの人々に愛唱されている童謡「七つの子」を、子を思う親の気持ちを感じ取り気持ちをこめて歌うことができる。

## ② 情報モラル教育に関する目標

もともとの歌の意味を正しくとらえ、マスメディアを通して伝わってきたおもしろおかしい歌詞が間違いであることを知り、正しい情報を知ることの大切さに気付く。

## 4 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
1 童謡「七つの子」をうたう。	○「からす」、「カーわい」などの口のあけ方 付点音譜のリズムの違いに気をつけて歌う。
2 言葉の意味を考えさせる。  「七つの子」 からすが7羽 からすは卵を7つ産まない 7年まで生きない 7つとは数えない など  「7歳の子」 自分の子どもと同じかわいい子どもが いる。	○母親との会話になっていることに気づかせる ・昔子供たちが生きる事が難しかった。 ・子供の無事の成長を願って2年置きの「七、 五、三」のお祝いがある。7歳まで育てば無事 に成長してくれるだろうと昔の人は考えてい た。
3 2年生で歌った「しゃぼんだま」をうたう。	◇言葉の意味を考え理解し、野口雨情の子供に 対する思い、心情を考えて歌う。
4 もう一度「七つの子」を歌ってみる。  ・替え歌でうたわれた、「からすのかってでしよ う カーカーカー」を歌ってみて、子どもたち と話し合ってみる。	○うわべの面白さに惑わされずにもともともって いる作品のよさや価値の大切さに気付くように 指導する。  ◇作詞者の気持ち、言葉の意味を理解し、日本 語の美しさ、すばらしさがわかる。

**著作権などの尊重**

—3年・図画工作—

## 1. 主題・単元名 「本日発売！2ページ絵本」

## 2. 題材・教材について

今日の子どもたちは作品の中に漫画やアニメのキャラクターを使いたがる。また、漫画のキャラクターが上手に真似できることが絵が上手であると思いをしている。なかよしの作品がそっくりという事もある。自分で考えてつくりだすという能力の低下が心配されている。

本題材では、簡単な絵本をつくることを通して、人の真似が上手にできる事よりも自分の五感をつかって考え出したオリジナルの作品の方が尊いものである事を伝えていきたい。そして、自分がつくったオリジナルの絵本が世界でたったひとつの大切な物である事を感じとってほしいと願う。

## 3. 目標

## (1)単元の目標

- ・穴をあけた紙から思いついた事をもとに絵本づくりを楽しむ。
- ・自分の意図が伝わるように文字の内容や大きさ、色などを工夫する。
- ・お互いの作品を見合い、発想を深めたり、共感し合ったりする。

## (2)本時の目標

## ①教科や領域に関する目標

- ・ストーリーを考え、見る人に内容がよく分かるように表現を工夫する。
- ・友だちの作品のよさや工夫したところに気付く。

## ②情報モラル教育に関する目標

- ・勝手に人の作品や本などのまねをしたりコピーをしたりしない。(著作権の保護)

## 5. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
<b>自分だけの絵本を作ろう：本日発売！2ページ絵本</b>	
<p>1 紙を半分に折り2ページの絵本を考える。(アイデアスケッチ)</p> <p>・漫画のキャラクターなどの絵を勝手に使っちゃいけない事やともだちのかいた絵をまねしてはいけない事を知る。 (著作権について)</p> <p>2 何のために「著作権」というものがあるのか考える。</p> <p>3 アイデアの見直しをする。</p> <p>4 アイデアをもとに画用紙に画面をレイアウトしたり紙を貼ったりして、思いの画面をつくってみる。</p> <p>5 自分の著作物である事を意識して、作品には奥付をつける。</p> <p>6 できた作品をおたがいに見せ合い意見を交換する。</p>	<p>○作品例をあげて活動の内容を伝える。</p> <p>○1ページ目に穴をあけることによりきっかけを作り、次のページとの関連を持たせる。</p> <p>○予め用意した「キャラクターを模倣した作品」を示し意見を出させる。</p> <p>○キャラクターなどのまねが上手にできる事よりも自分の考えで創り出したオリジナルの作品の方が尊いものであることを伝える。</p> <p>○著作権について説明をする。</p> <p>○子どもがつくったものでも著作権があり勝手にまねしてはいけない事を伝える。</p> <p>◇人の真似ではなく、思いついた事をもとに絵本の内容を考え画面を構成する事ができているか。(発想や構想の能力)</p> <p>◇どんな所が工夫されているかなど、よさを認め合えたか。(鑑賞の能力)</p>